

ファイル解説(ファイル伝送サービス)

A.1. 総合振込

A.1.1. 総合振込

(1) ファイル名

全銀協TCP/IP手順のファイル制御電文に設定する「ファイル名」について、以下に示します。
伝送サイクルコードには送信時のサイクルを設定します。
01～99の範囲とし、重複しなければ、飛び番、降順の設定が可能です。

ファイル名			
産業別コード	データコード	伝送サイクルコード	予備
5020	0121	XX	00

(2) レコード長/レコード形式

120バイト固定長レコードとします。

(3) レコード構成

A. シングルサブファイル

シングルサブファイルのレコード構成を以下に示します。

ヘッダ	データ	データ	トレーラ	エンド
-----	-----	-------	-----	------	-----

B. マルチサブファイル

マルチサブファイルのレコード構成を以下に示します。

なお、1つのマルチサブファイル内のサブファイル数の上限は99,999です。

ヘッダ	データ	データ	トレーラ	ヘッダ	データ	データ	...
...	データ	データ	トレーラ	エンド		

(4) レコードフォーマット

全国銀行協会が制定するレコードフォーマットに準拠します。

A. ヘッダレコード

ヘッダレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「1」:ヘッダレコード
2	種別コード	N(2)	2	業務種別を表す。 「21」:総合振込
3	コード区分	N(1)	1	使用コードを表す。 「0」:JIS 「1」:EBCDIC
4	振込依頼人コード (取引企業コード)	N(10)	10	銀行が定めた振込依頼人のコードを表す。 右詰め残り前「0」
5	振込依頼人名	C(40)	40	振込依頼人名を表す。 左詰め残りスペース
6	取組日	N(4)	4	振込指定日を表す。 MMDD(月-日)
7	仕向銀行番号	N(4)	4	仕向銀行番号を表す。 金融機関共同コード
8	仕向銀行名	C(15)	15	仕向銀行名を表す。 左詰め残りスペース
9	仕向支店番号	N(3)	3	仕向支店番号を表す。 統一店番号
10	仕向支店名	C(15)	15	仕向支店名を表す。 左詰め残りスペース
11	預金種目 (依頼人)	N(1)	1	振込依頼人の預金種目を表す。 「1」:普通預金 「2」:当座預金 「9」:その他
12	口座番号 (依頼人)	N(7)	7	振込依頼人の口座番号を表す。 右詰め残り前「0」
13	ダミー	C(17)	17	ダミーエリア(初期値)

B. データレコード

データレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「2」:データレコード
2	被仕向銀行番号	N(4)	4	被仕向銀行番号を表す。 金融機関共同コード
3	被仕向銀行名	C(15)	15	被仕向銀行名を表す。 左詰め残りスペース
4	被仕向支店番号	N(3)	3	被仕向支店番号を表す。 統一店番号
5	被仕向支店名	C(15)	15	被仕向支店名を表す。 左詰め残りスペース
6	手形交換所番号	N(4)	4	手形交換所番号を表す。 統一手形交換所番号
7	預金種目	N(1)	1	預金者の預金種目を表す。 「1」:普通預金 「2」:当座預金 「4」:貯蓄預金 「9」:その他
8	口座番号	N(7)	7	振込先の口座番号を表す。 右詰め残り前「0」
9	受取人名	C(30)	30	受取人名を表す。 左詰め残りスペース
10	振込金額	N(10)	10	振込金額を表す。 右詰め残り前「0」
11	新規コード	N(1)	1	新規振替、変更などを表す。 「1」:第1回振込分 「2」:変更分(被仕向銀行・支店、預金種目、口座番号) 「0」:その他
12	顧客コード1	N(10)	10	振込依頼人が定めた受取人識別のための顧客コードを表す。
13	顧客コード2	N(10)	10	振込依頼人が定めた受取人識別のための顧客コードを表す。
12 および 13	EDI情報	C(20)	20	項番15の識別表示が「Y」の場合に使用する。 振込依頼人から受取人に対して通知するEDI情報を表す。 左詰め残りスペース
14	振込指定区分	N(1)	1	「7」:テレ振込 「8」:文書振込

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
15	識別表示	C(1)	1	「Y」またはスペース 「Y」を付した場合は、項番12・13の項目内容は「EDI情報」を表す。
16	ダミー	C(7)	7	ダミーエリア(初期値)

C. トレーラレコード

トレーラレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「8」:トレーラレコード
2	合計件数	N(6)	6	合計件数を表す。 右詰め残り前「0」
3	合計金額	N(12)	12	合計金額を表す。 右詰め残り前「0」
4	ダミー	C(101)	101	ダミーエリア(初期値)

D. エンドレコード

トレーラレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「9」:エンドレコード
2	ダミー	C(119)	119	ダミーエリア(初期値)

(5) チェック内容

本サービスでは、総合振込の送信中にデータの内容のチェックを行います。
 チェックの種類と概要を以下に示します。

項番	種類	説明
1	シーケンスチェック	「データ区分」のシーケンスチェックを行います。
2	日付チェック*1	ヘッダレコード中の「取組日」が営業日であることを確認します。
		チェック対象の「取組日」が、同一ヘッダレコード中の「振込依頼人コード(取引企業コード)」の、適用開始日と適用終了日の範囲内であることを確認します。
3	トレーラ整合性チェック	データレコード中の「振込金額」、データレコード数を加算し、トレーラレコードの「合計金額」、「合計件数」との整合性を確認します。
4	フォーマットチェック	チェック対象項目について、属性が正しいこと、定数であることを確認します。
5	振込依頼人コード(取引企業コード)チェック	ヘッダレコード中の「振込依頼人コード(取引企業コード)」が、伝送時のセンタ確認コード配下に存在することを確認します。
6	受付可能期間内チェック*1	ヘッダレコード中の「取組日」、及び受付時刻が、受付可能期間内であることを確認します。
7	レコード件数チェック	1依頼データ内のレコード数が金融機関センタ配信上限件数以内であることをチェックを行います。

(注)*1 「取組日」が1月1日の場合、本チェックは実施しません。

A. シーケンスチェック

データ区分のシーケンスチェックを行います。シーケンスチェックの内容を以下に示します。

		チェック対象レコードのデータ区分			
		H*1	D	T*2	E*2
直前のレコードの データ区分	H	×	○	○	×
	D	×	○	○	×
	T	○	×	×	○
	E*3	○	×	×	×

(注1) H:ヘッダレコード、D:データレコード、T:トレーラレコード、E:エンドレコード

(注2) ○:レコードシーケンス正常、×:レコードシーケンス異常

(注)*1 先頭レコードは必ず「ヘッダレコード」であること

(注)*2 最終レコードは必ず「トレーラレコード」、または「エンドレコード」であること

(注)*3 ファイルの中間にエンドレコードが作成されていても許容します

B. トレーラ整合性チェック

サブファイル単位にトレーラレコードとの整合性チェックを行います。

(A) 件数の整合性チェック

サブファイル中のデータレコード数がトレーラレコードの「合計件数」と一致することを確認します。
(振込金額0円の明細もデータレコード数として加算します。)

(B) 金額の整合性チェック

サブファイル中のデータレコードの「振込金額」の合計がトレーラレコードの「合計金額」と一致することを確認します。

C. フォーマットチェック

総合振込のフォーマットチェックを以下に示します。

(A) ヘッダレコード

項番	項目	形式/桁数	バイト長	チェック内容
1	種別コード	N(2)	2	「21」:総合振込であること。
2	振込依頼人コード (取引企業コード)	N(10)	10	数値であること。
3	仕向銀行番号	N(4)	4	当行の金融機関コードであること。

(B) データレコード

項番	項目	形式/桁数	バイト長	チェック内容
1	振込金額	N(10)	10	数値であること。

(C) トレーラレコード

項番	項目	形式/桁数	バイト長	チェック内容
1	合計件数	N(6)	6	数値であること。
2	合計金額	N(12)	12	数値であること。

D. 受付可能期間内チェック

依頼データに設定された指定日が受付可能期間内(受付開始日～受付時限まで)であるかのチェックを行います。

A.1.2. 照合データ(総合振込)

(1) ファイル名

全銀協TCP/IP手順のファイル制御電文に設定する「ファイル名」について、以下に示します。

伝送サイクルコードには送信時のサイクルを設定します。

01～99の範囲とし、重複しなければ、飛び番、降順の設定が可能です。

ファイル名			
産業別コード	データコード	伝送サイクルコード	予備
5020	9121	XX	00

(2) レコード長/レコード形式

120バイト固定長レコードとします。

(3) レコード構成

A. シングルサブファイル

シングルサブファイルのレコード構成を以下に示します。

ヘッダ	データ	データ	トレーラ	エンド
-----	-----	-------	-----	------	-----

(4) レコードフォーマット

全国銀行協会が制定するレコードフォーマットに準拠します。

A. ヘッダレコード

ヘッダレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「1」:ヘッダレコード
2	種別コード	N(2)	2	業務種別を表す。 21:総合振込
3	伝送日	N(8)	8	総合振込データを伝送した日付を表す。 YYYYMMDD(年-月-日)
4	伝送サイクルコード	N(2)	2	総合振込データを伝送した際のサイクルコードを表す。 右詰め残り前「0」
5	照合識別コード	C(6)	6	照合者が正当であるかどうかを確認するためのコードを表す。
6	取消実施区分	C(1)	1	依頼データの取消実施有無を設定する。 「スペース」:照合実施 「1」:取消実施
7	ダミー	C(100)	100	ダミーエリア(初期値)

B. データレコード

データレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「2」:データレコード
2	取組日	N(4)	4	総合振込データの振込指定日を表す。 MMDD(月・日)
3	振込依頼人コード (取引企業コード)	N(10)	10	銀行が定めた振込依頼人のコードを表す。 右詰め残り前「0」
4	合計件数	N(6)	6	総合振込データの合計件数を表す。 右詰め残り前「0」
5	合計金額	N(12)	12	総合振込データの合計金額を表す。 右詰め残り前「0」
6	ダミー	C(87)	87	ダミーエリア(初期値)

C. トレーラレコード

トレーラレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「8」:トレーラレコード
2	ダミー	C(119)	119	ダミーエリア(初期値)

D. エンドレコード

トレーラレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「9」:エンドレコード
2	ダミー	C(119)	119	ダミーエリア(初期値)

(5) チェック内容

本サービスでは、照合データ(総合振込)の送信中にデータの内容のチェックを行います。
チェックの種類と概要を以下に示します。

項番	種類	説明
1.	シーケンスチェック	「データ区分」のシーケンスチェックを行います。
2.	フォーマットチェック	チェック対象項目が、数値/数値またはスペース/スペース以外/定数/スペースであることのチェックを行います。

A. シーケンスチェック

データ区分のシーケンスチェックを行います。シーケンスチェックの内容を以下に示します。

		チェック対象レコードのデータ区分			
		H*1	D	T*2	E*2
直前のレコードの データ区分	H	×	○	○	×
	D	×	○	○	×
	T	×	×	×	○
	E	×	×	×	×

(注1) H:ヘッダレコード、D:データレコード、T:トレーラレコード、E:エンドレコード

(注2) ○:レコードシーケンス正常、×:レコードシーケンス異常

(注)*1 先頭レコードは必ず「ヘッダレコード」であること

(注)*2 最終レコードは必ず「トレーラレコード」、または「エンドレコード」であること

B. フォーマットチェック

照合データ(総合振込)のフォーマットチェックを行います。フォーマットチェックの内容を以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	チェック内容
1	取消実施区分	C(1)	1	「スペース」(照合実施)または「1」(取消実施)であること。

A.1.3. 受付状況照会データ(総合振込)

(1) ファイル名

全銀協TCP/IP手順のファイル制御電文に設定する「ファイル名」について、以下に示します。

伝送サイクルコードには送信時のサイクルを設定します。

01～99の範囲とし、重複、飛び番、降順の設定が可能です。

ファイル名			
産業別コード	データコード	伝送サイクルコード	予備
5020	8121	XX	00

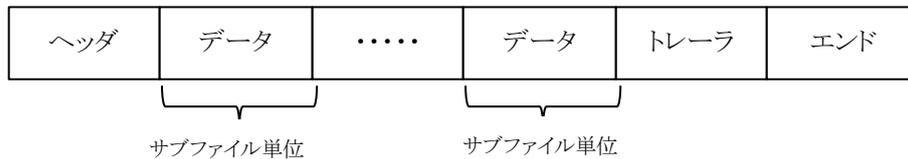
(2) レコード長/レコード形式

120バイト固定長レコードとします。

(3) レコード構成

A. シングルサブファイル

シングルサブファイルのレコード構成を以下に示します。



伝送サイクルコード単位

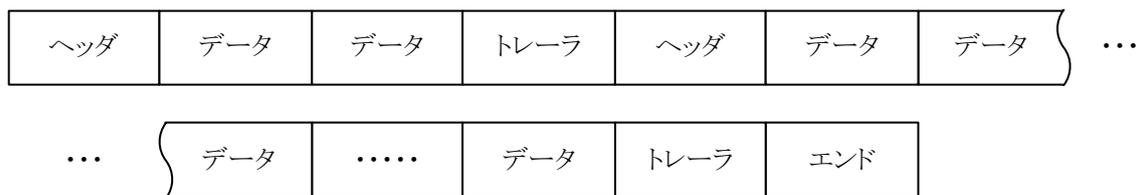
※ヘッダレコードは「依頼データの伝送日時+依頼データの伝送サイクルコード」単位に作成します。

※データレコードは伝送サイクルコード内のサブファイル単位に作成する。

B. マルチサブファイル

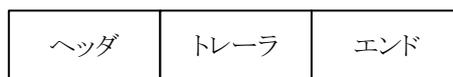
マルチサブファイルのレコード構成を以下に示します。

レコードの作成単位は前述のシングルサブファイルと同様です。



C. ダミーデータ

照会対象のデータが存在しない場合、ダミーデータを配信します。ダミーデータのレコード構成を以下に示します。



(4) レコードフォーマット

A. シングルサブファイル/マルチサブファイルの場合

(A) ヘッダレコード

ヘッダレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「1」:ヘッダレコード
2	金融機関コード	N(4)	4	金融機関コードを表す。
3	加入者コード	C(14)	14	加入者コードを表す。
4	ファイル名	C(12)	12	総合振込の全銀ファイル名を表す。 「502001210000」
5	依頼データ 伝送日時	N(12)	12	照会対象の依頼データの伝送日時を表す。 YYYYMMDDHHMM(年-月-日-時-分)
6	依頼データ 伝送サイクル コード	N(2)	2	照会対象の依頼データの伝送サイクルコードを表す。
7	照会日時	N(12)	12	受付状況の照会日時を表す。 YYYYMMDDHHMM(年-月-日-時-分)
8	照会回数	N(2)	2	照会日付単位に照会回数を表す。
9	当方センタ確認 コード	C(14)	14	本システムのセンタ確認コードを表す。
10	相手センタ確認 コード	C(14)	14	加入者センタのセンタ確認コードを表す。
11	受付状態	C(1)	1	照会対象の依頼データの受付状態を表す。 「0」(未照合) 「1」(照合済) 「2」(照合不要) 「3」(取消済) 「9」(照合時限切れ) ※依頼データの伝送サイクルコード単位の情報

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
12	照合時限日時	N(12)	12	<ul style="list-style-type: none"> ・受付状態が「0」(未照合)または「9」(照合時限切れ)の場合、当該伝送サイクルコードにおける依頼データの照合時限日時を表す。 YYYYMMDDHHMM(年・月・日・時・分) ・受付状態が「1」(照合済)の場合、照合日時を表す。 YYYYMMDDHHMM(年・月・日・時・分) ・受付状態が「3」(取消済)の場合、取消日時を表す。 YYYYMMDDHHMM(年・月・日・時・分) <p>※依頼データの伝送サイクルコード単位の情報 ※受付状態が「0」(未照合)または「9」(照合時限切れ)の場合、サブファイル内で最も早い照合期限を表示する。 ※受付状態が「2」(照合不要)の場合は、オール0を設定する。</p>
13	ダミー	C(20)	20	ダミーエリア(初期値)

(B) データレコード

データレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「2」:データレコード
2	サブファイル通番	N(5)	5	照会対象の依頼データのサブファイル通番を表す。
3	振込依頼人コード (取引企業コード)	C(12)	12	振込依頼人コードを表す。 振込依頼人コード(10桁)+スペース(2桁)
4	取組日	N(4)	4	照会対象の依頼データに設定されている取組日を表す。 MMDD(月・日)
5	合計件数	N(6)	6	照会対象の依頼データに設定されている合計件数を表す。
6	合計金額	N(12)	12	照会対象の依頼データに設定されている合計金額を表す。
7	受付状態	C(1)	1	<p>照会対象の依頼データの受付状態を表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・照合を行う加入者センタの場合 「0」(未照合) 「1」(照合済) 「3」(取消済) 「9」(照合時限切れ) ・照合を行わない加入者センタの場合 「2」(照合不要) <p>※依頼データのサブファイル単位の情報</p>

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
8	照合時限日時	N(12)	12	<ul style="list-style-type: none"> ・直近のヘッダレコードの受付状態が「0」(未照合)または「9」(照合時限切れ)の場合、サブファイル単位の照合時限日時を表す。 YYYYMMDDHHMM(年-月-日-時-分) ・受付状態が「1」(照合済)の場合、照合日時を表す。 YYYYMMDDHHMM(年-月-日-時-分) ・受付状態が「3」(取消済)の場合、取消日時を表す。 YYYYMMDDHHMM(年-月-日-時-分) ※同一伝送サイクルコードにおけるサブファイル単位の情報 ※受付状態が「2」(照合不要)の場合は、オール0を設定する。
9	ダミー	C(67)	67	ダミーエリア(初期値)

(C)トレーラレコード

トレーラレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「8」:トレーラレコード
2	データレコード 件数	N(5)	5	データレコードの件数を表す。
3	ダミー	C(114)	114	ダミーエリア(初期値)

(D)エンドレコード

エンドレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「9」:エンドレコード
2	ダミー	C(119)	119	ダミーエリア(初期値)

B. ダミーデータの場合

(A) ヘッダレコード

ヘッダレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「1」:ヘッダレコード
2	金融機関コード	N(4)	4	金融機関コードを表す。
3	加入者コード	C(14)	14	加入者コードを表す。
4	ファイル名	C(12)	12	総合振込の全銀ファイル名を表す。 「502001210000」
5	依頼データ 伝送日時	N(12)	12	オール0
6	依頼データ 伝送サイクル コード	N(2)	2	オール0
7	照会日時	N(12)	12	受付状況の照会日時を表す。 YYYYMMDDHHMM(年・月・日・時・分)
8	照会回数	N(2)	2	照会日付単位に照会回数を表す。
9	当方センタ確認 コード	C(14)	14	本システムのセンタ確認コードを表す。
10	相手センタ確認 コード	C(14)	14	加入者センタのセンタ確認コードを表す。
11	受付状態	C(1)	1	スペース
12	照合時限日時	N(12)	12	オール0
13	ダミー	C(20)	20	ダミーエリア(初期値)

(B) トレーラレコード

トレーラレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「8」:トレーラレコード
2	データレコード 件数	N(5)	5	データレコードの件数を表す。 ※ データレコードが存在しないためオール0
3	ダミー	C(114)	114	ダミーエリア(初期値)

(C) エンドレコード

エンドレコードのフォーマットを以下に示します。

項番	項目	形式/桁数	バイト長	内容
1	データ区分	N(1)	1	レコードの種類を表す。 「9」: エンドレコード
2	ダミー	C(119)	119	ダミーエリア(初期値)

(5) 特記事項

受付状況照会データ(総合振込)は、伝送サイクルコードの重複を許容し、伝送サイクルコードを意識した伝送は行わないため、同一データの再送信は行えません。